

鳳閣星中殺

「鳳閣星」と云う星の性情には「温順」「おおらか」「のんびり」等という意味合があります。性情は温順で、精神世界における「よろこび」や「安住」を非常に大切にします。自然とのふれあいとあそぶ事が好きな星です。

これが中殺されると、非常に働きもの、タフな人、努力する人と評されることになります。

(表面的には、鳳閣星の性情が消えて、別な形で出るか、あるいは強調されて出て来ます。)

鳳閣星中殺は鳳閣星自体が所有している自然主義の思想、温順な心情、伝達する本能全ての事象が自分自身の心とは裏腹の働きをしますので、端的に表現しますと「心が伴わない自然主義」「意図しない事象の伝達」とも云える状態をつくり出します。

この状態は一種の無為無策の行動を起こし、何の目的もなく、意図もない自分自身の行動が最終的には自分を窮地に追い込むような事象を作り出してしまう場合が出て来ます。

(たとえば、人間個人の肉体が人間の意志に関係なく働いたら、どのような状態をつくるであろうか…と考えてみて下さい。手や足や頭が自分の考えに反して動くような状態がつくりだされるのです)

「温順」「おおらか」「のんびり」などという意味合いが消えて、自分の心とは全く反対の行動をとるわけですから、傍目からみると、非常に働きもの、タフな人、努力する人に見られるのです。

その結果、エネルギーを使い過ぎて寿命を縮めることにもなりかねません。

鳳閣星中殺の人は何事においても満足感が味わえないのです。ですから満足を得ようとして何事にでも手をだしてみたくなり「あれもやりたい、これもやりたい」と多成多敗の状態をつくりだしてしまうのです。

当然、多忙をきわめますから、自分自身の人生行程の速度が早いものになり、自分自身の生命エネルギーまでも短い間に消耗してしまうと云う状態をつくりだしてしまうのです。

ですから鳳閣星中殺の人が手がけたモノ、それが立派に出来上がるのに比例して寿命が縮まるのです。

(その代わり出来上がったモノは、あとあとまで評価されるようになります)

また、鳳閣星中殺の人は精神が不安定です。それが人生行程の波を荒くしてしまいますので、幸運・不運の差が大きなものになるのです。それは、人が味わえないような有形の幸運を掴むかと思えば、時には日々を耐えのものと過ごさなければならなかったりもするのです。

しかし、鳳閣星中殺の人は、人生の浮沈に際してのあきらめの良さがあり、そのいさぎよさは、かろやかなまでにすがすがしさがあるのです。

鳳閣星は、人間関係にたとえますと「子供」「目下」ということになります。ですから鳳閣星中殺の人は子供縁が薄いのです。(鳳閣星中殺の世界は子供縁に関しては他の星世界と異なった独特な世界をもっているのです)

鳳閣星中殺の世界は、子供が生れ大切に育ててきたにも関わらず、その子が成長しても子供に頼る事ができません。老後に頼れない子供だったりするわけです。また、鳳閣星中殺者も本人自身が子供に頼ろうとはしないのです。ですが、子供を育てる時期にあっては他の人よりも幾多の危険や苦労を経験しなければならなくなるのが宿命です。たとえば、子供が病弱であったり、よくケガをする子供であったりで、鳳閣星中殺者の実子は成人になるまでの段階では大変な苦難がまちうけて居るのであります。

しかし、神はよく人を救うもので、鳳閣星中殺をもっている人には、土壇場において見事な冷静さとそれに伴う行動が出来る力を与えて下さっているのです。

それは鳳閣星中殺をもっている人の意志力などには関係がなく行動がおこせるのです。

そのために、人生上のショックがあっても、手が・足が…無意識のうちに「生」にむかって突走るのです。後になって理屈で考えてみても…そのとき「なぜ」「どうして」そのような行動がおこせたかわ理解出来ないことばかりでしょう。(やはり、すべては神が守ってくださったからだ…としか考えられない筈です)

子供の成人後は、成る可くはやく親元から離す方が良いと思います。(でないと、親の宿命中殺を子供が受けることになります。その子供が、男の子であれば仕事が転々と変わって何をするにしても成功しません。

女の子であれば、結婚運がない子供になります)

鳳閣星中殺をもっている人は、仕事面では部下に悩まされることが多くなります。

部下とは一定の距離をおいたつき合い方をするか、一匹狼的な仕事をしたほうが良いようです。

また、鳳閣星中殺をもっている人は、土壇場においてはみごとな冷静さと、それに伴う行動ができる利点があります。

そして、孤独に対しても実に強靭であるため、研究者、職人などでは大成しやすいのです。